

福岡アジア美術館大規模国際展

開催計画（案）

1 開催趣旨

本展は、アジアの現代美術の最新動向を包括的に紹介する国際展として、福岡アジア美術館がこれまで行ってきたアジア近現代美術に関する展覧会とアーティスト・イン・レジデンス事業、そのほか調査研究の蓄積を基盤として開催するものである。

アジアのアーティストたちは、急速な変化をつづける社会の中で、政治や宗教、歴史、共同体、ジェンダーなどへの鋭い視点や問題意識を持ちながら、独自の表現を切り拓いてきた。

本展では、アジアのいまを象徴するようなアーティストたちを招聘し、福岡でのレジデンス等を通して新作を発表。また、作品の展示だけにとどまらず、制作プロセスの公開や交流・参加の機会を数多く創出することで、多くの人々に楽しんでいただける市民に開かれた国際展を目指す。

2 会 期

2027（令和9）年9～12月（3カ月間程度）

※参加アーティストによる福岡での滞在制作は 2026 年から開始

3 会 場

- (1) 福岡アジア美術館
- (2) 市内会場（天神周辺などに3カ所程度）
- (3) Artist Cafe Fukuoka



4 主催

福岡アジア美術館大規模国際展実行委員会

5 目的

- ・アジア現代アートの魅力と最新動向を国内外に発信する
- ・市民がアーティストと交流できるような創造的な場を創出する
- ・福岡アジア美術館への期待感を高め、国際的な交流拠点機能を強化する

6 本展の特徴

アーティスト・イン・レジデンスを活用した、 市民に開かれた国際現代美術展

①世界（アジア）と福岡をつなげる

参加アーティストたちは福岡に一定期間滞在し、本展のための作品を構想・制作。アジアの国・地域から福岡はどう見えるのか？また福岡からアジアはどう見えるのか？アーティストとその作品を通して、アジアと福岡のことをより深く理解する機会を作り出していく。

②アーティストと市民をつなげる

参加アーティストたちは福岡に一定期間滞在し、様々な人と交流。作品制作のために地域の人や専門家にインタビューをしたり、共同で制作したり、制作プロセスを公開したり、トーク等の交流型イベントを実施することで、現代アートの楽しみ方や魅力を伝えていく。

③美術館と街（日常）をつなげる

参加アーティストたちの作品は美術館だけでなく、天神などの市内中心部、舞鶴公園にある Artist Cafe Fukuoka（旧舞鶴中学校）での展示も想定し、その様子や制作プロセスは SNS 等で日々情報発信される。これにより現代アートに触れる機会を、より多く日常の中に作り出していく。

7 展覧会テーマ

コモン・グラウンド：響きあうその先へ（仮）

「コモン・グラウンド（Common Ground）」

ここでは、立場や背景が違う人たちの間にある「共通の基盤・共有できる部分」という意味。

本展の特徴に即して言うと、コモン・グラウンドとは・・・

- ①福岡とアジアの間に見出される共通性
- ②アーティストと市民が会うことで生まれる共有の場
- ③美術館と日常が重なる接点

■ 説明文（案）

現代アートという地平で躍動する表現者たち。

ここで紹介するアーティストたちは、

日々姿を変えるアジアの「いま」と向き合いながら、

さまざまな境界を横断し、自らの表現を一つひとつ切り拓いてきた。

本展のテーマは「コモン・グラウンド：響きあうその先へ（仮）」。

多くのアーティストが作品制作のために福岡に滞在し、様々な人と交流する。

福岡で出会う人、文化、歴史、自然と、

アーティストの生きるアジアの「いま」が響きあう。

さまざまな境界や価値観が揺らぐ世界のなかで、

アジアと福岡がつながり、新たな地平が広がる。

立場や背景のちがう人たちの間にある

「共有できる基盤」としてのコモン・グラウンド。

そこに向かうためには、自らを開き、交流し、対話し続けるしかないのではないか。

きっとその場所への標が、何度でも立ち現れてくるだろう。

福岡、アジア、世界のさまざまな現実が、そのプロセスのなかでつながり、

同じ場所・時間を生きていても、まったく違う現実が浮かび上がってくる。

そしてまた、より深く交流することは、痛みをともなうことであるのかもしれない。

それでも私たちは、共存するための知恵と他者への共感を手に、

新たな地平へとまた一步、足を踏み出していきたい。

きっとたどり着けるはずだ。

8 展覧会構成

(1) 参加アーティスト（15組程度）による作品

アジアを中心に現代アートの分野で活躍するアーティストが本展のために制作した絵画、彫刻、インスタレーション、映像、パフォーマンス等の作品を福岡アジア美術館および特設会場で展示する。

(2) 所蔵品及びアーカイブ

かつて福岡アジア美術館のレジデンス事業において滞在制作された作品（所蔵品）、およびその制作プロセスや市民との交流を記録したアーカイブ等を展示する。

(3) 交流型イベント

市民や来場者がアーティストたちの作品世界をより深く鑑賞・体験できるように、制作プロセスの公開やワークショップやトーク等の交流型イベントを展開する。